

星の歌を聞きながら

ボウラー作 伊勢英子絵 入江真佐子訳 早川書房

最愛さいあいの父ちちの死しに、ルークは心こころを閉とざしたまま。明あかるさは消きえ、父譲ちちゆずりのピアノの才能さいのうも持もて余あます日々。ある日、ルークは不良仲間の命令めいれいで、あるへお屋敷いへやしきに盗みに入る。忍しのび込んだ屋敷やしきには、何なにかにおびえ泣なき叫さけぶ少女しょうじょの姿すがたが。屋敷の主ミセス・リトルに見みつかったルーク。老婆ろうばは警察けいさつに知らせるかわりに、こんな相談そうだんを持もちかけた。「…孫娘まごむすめのためにピアノを弾ひいてもらえないだろうか」こうして、ルークと盲目めくらめくらの少女しょうじょタリーとの音楽おんがくを通とおじた不思議な交こう流りゅうが始はじまった。

